

### 宝永地震による津波と地盤沈下

宝永4年(1707)10月4日午後0時30分、紀伊半島沖でマグニチュード8.4の大地震が発生しました。この地震で四国の太平洋沿岸には津波が襲い、瀬戸内海沿岸では地盤沈下によりその後高潮被害が起こるようになりました。そのことを示す痕跡や記録が徳島県海陽町と愛媛県西条市に残されています。

#### ■ 鞆浦の大岩碑 (徳島県海陽町)

海陽町の鞆浦漁港近くに幅約5.2m、高さ約3mの大岩があります。ここに慶長地震(1605)の碑と並んで宝永4年(1707)の地震の碑が刻まれています。慶長地震の碑には十丈(30m)の津波が7度襲来し100余人が亡くなったことなどが記され、宝永地震の碑には「宝永四年丁亥冬十月四日未時 地大震所海潮湧出丈余蕩々襄陵反復三次而止 然我浦無一人之死者可謂幸矣 後之遭大震者予慮海潮之变而避焉則可」とあります。宝永地震の時には午後2時頃に3m余の津波が3度襲来したが犠牲者がなくて幸いであった、大地震の時には津波が来ると考えて避難すべきと記されています。<海部町史編集部編「海部町史」1971年、大石修一編「奥浦誌」2006年など>



#### ■ 碓神社 (愛媛県西条市)

西条市玉津の碓神社の棟札に「宝永四年十月四日大地震以後高汐満就中宝永五年八月三日大洪水高汐社中迄上揚砂尺余段々及大破今年新造営于時正徳二年九月八日御遷宮」と記されています。宝永4年(1707)の地震によりそれ以後地盤沈下のため高潮が満ちるようになり、とりわけ宝永5年(1708)には大洪水、高潮が社中まで上がり、碓神社が大破したため、正徳2年(1712)に遷宮したということです。加藤正典氏によると、もともと明神木にあった碓神社は、玉津字丸山の本(玉津小学校の北東の角の高台)に移され、そこから現在地に遷宮されたそうです。旧碓神社跡には碑が建てられています。<加藤正典「明神木の歴史と碓神社-伊予西條の歴史の一考察-」2001年など>

